

3. アンケート結果から得られた内容

■ アンケート調査概要は以下の通り。

■ 実施期間：2025年10月10日～11月14日（督促込み）

■ 対象者：九州管内の生産者、食品製造事業者、物流事業者、輸出商社（輸出商社のみ、九州管内の農産物や食品を取り扱う事業者としている）

■ 回収数： 生産者 152

（送付数600、回答率25.3%）

食品製造事業者 103

（送付数600、回答率17.2%）

物流事業者 347⇒農産物や食品を取り扱う事業者は137

（送付数2,862、回答率12.1%）

輸出事業者 24

（送付数362、回答率6.6%）

※n数が少ないため、後日追加調査を実施（ヒアリング、書面）

3. アンケート結果から得られた内容

(回答数の多いもの、特徴が出ている回答から得られた内容を取りまとめた。)

《生産者・食品製造事業者》

- 物流2024年問題について、関東近県との競争が不利になるかについて、生産者は7割、食品製造事業者は5割がそう思うと回答している。
- 一方でアジア向けの輸出が有利になるかについては生産者が5割、食品製造事業者は4割がそう思うと回答している。

《生産者》

- 生産者が輸出を行うに当たって重視しているのは温度・湿度の維持（29%）、衝撃を減らす（18%）という回答が多かった。
- 輸出をしない理由については鮮度・品質の維持（18%）、リスクが大きい（15%）、価格が合わない（13%）、売り先がない（12%）という回答が多かった。
- 生産者についてロットを揃えることを検討したことがある者は2割しかおらず、その理由としては取りまとめ役がない（30%）、価格が合わない（30%）という回答が多かった。
- 輸出をしない理由に物流の課題が当てはまるとした生産者は3割、輸出をするには、輸送時間が短くなり、鮮度・品質保持ができる（23%）、物流費が下がる（21%）、希望する輸送条件（21%）、リスクが少なくなる（20%）という回答が同程度あった。
- 効率的な輸出物流の構築に向けて重要なこととしては、最適なルートの実立（22%）が多かった。

3. アンケート結果から得られた内容

《食品製造事業者》

- 輸出拠点を活用している食品製造事業者は、輸出商社の指示による（60%）という回答が最も大きかった。
- 食品製造事業者が輸出において重視しているのは包装を丁寧に行う（26%）、衝撃がないようにする（20%）という回答が多かった。
- 食品製造事業者で輸出をしない理由は価格が合わない（25%）という回答が最も多かった。
- 輸出をしない理由に物流の課題が当てはまるとした食品製造事業者は6割であった。
- 輸出をしている食品製造事業者物流に課題があるとしているのは5割、その理由としては物流費が高い（43%）という回答がもっとも多かった。

《物流事業者》

- 物流事業者について、農林水産物や食品を運んでいるのは4割。今後の意向としては9割が運びたくないという回答している。
- 物流事業者について仮に首都圏の輸送より博多港や福岡空港までの輸送が増えることとなった場合の意見については、望ましいとの回答は2割、どちらでもない3割、望ましくない15%だった。
- 望ましくない理由としては首都圏、関西圏までの輸送が減少することは困るという理由がほとんどだった。

3. アンケート結果から得られた内容

＜＜輸出商社＞＞

- ※n数が少ないため、データをそのまま活用はできない。
- アジア向けの輸出は九州は有利になると回答している事業者は7割。
- 九州の農林水産物と加工食品の輸出を実施していると回答した事業者は50%。
- 輸出物流の課題は規制などが厳しい、物流費が高いの2つが26.5%で最も多い。
- 九州の農産物を輸出していない事業者の輸出を実施していない理由に物流の課題はほぼ当てはまらない（当てはまるが9.1%のみ）。
- 輸出物流の構築に向けて重要だと考えていることは、行政手続き上の環境整備と最適な輸送ルートの確立がいずれも23.9%でトップに挙げられている。
- 九州の農林水産物や加工食品を輸出する際の課題は、その他がトップであったが、次いで荷物が集まらないという理由が38.5%となっている。

＜＜追加聞き取り調査＞＞

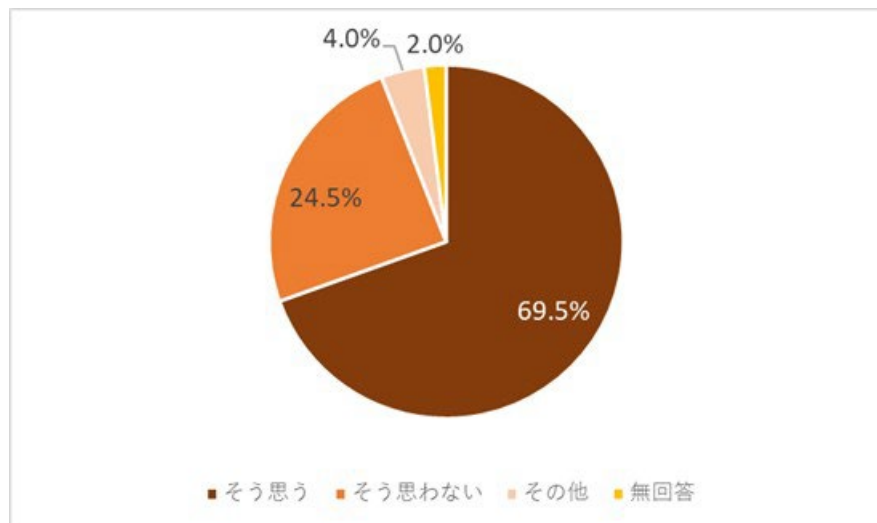
- 韓国便が多いため、福岡空港を重宝している。
- 輸出拠点までの持続可能なルート構築は仕組み化が必要。
- 輸出拠点の着時間を考慮する必要がある。
- 社会実装をするために、今回の実証の課題を潰していくべき。

3. アンケート結果から得られた内容

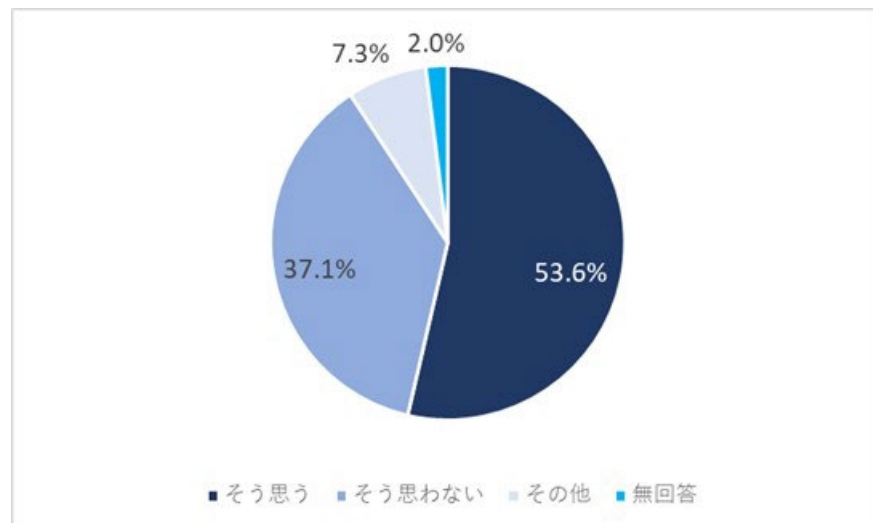
生産者アンケート調査結果

- 物流2024年問題に対する意向は、関東近県の商品との競争は不利だと思う生産者が約7割となっている。
- アジア向けの輸出は九州が有利になるかという意向については、半数以上となる53.6%がそう思うと回答しているが、約4割弱となる37.1%はそう思わないと回答している。

物流2024年問題により関東近県の商品との競争が不利になると思うか
(n=151)



アジア向け輸出は九州の産地において有利になると思うか
(n=151)

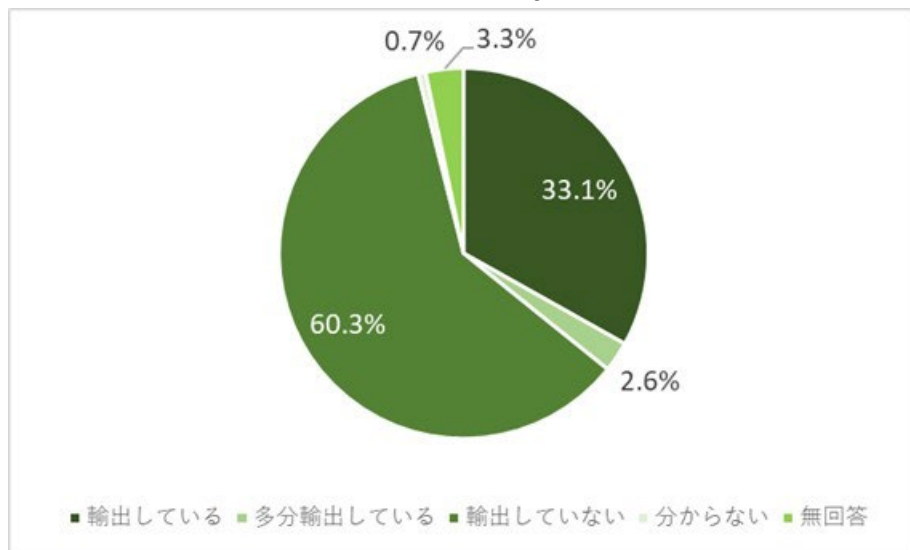


3. アンケート結果から得られた内容

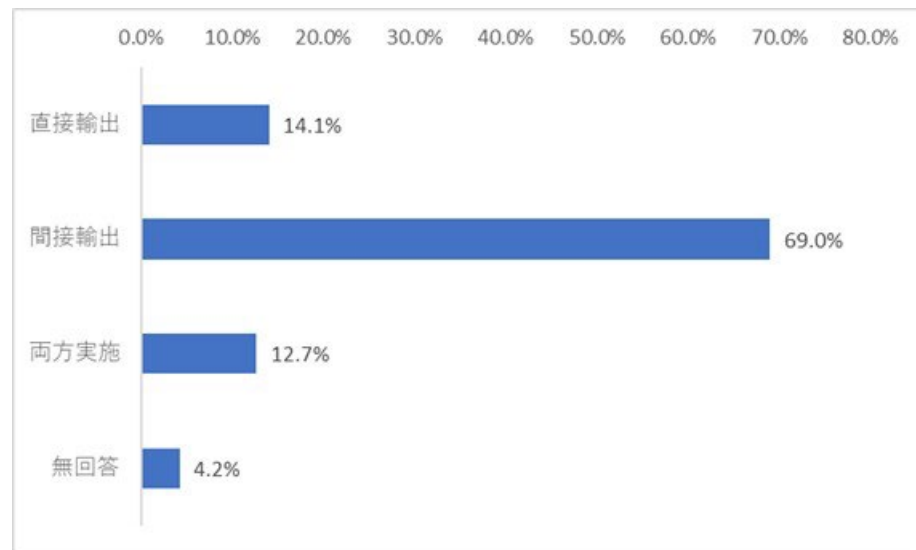
生産者アンケート調査結果

- 現在の輸出実態について、輸出しているのは33.1%にとどまっている。6割が輸出を実施していないと回答。
- 輸出の方法については、間接輸出が約7割と非常に多い割合となっている。

現在輸出を実施しているか
(n=151)



輸出の方法の割合（複数回答）
※輸出している、たぶんしている回答者 (n=71)

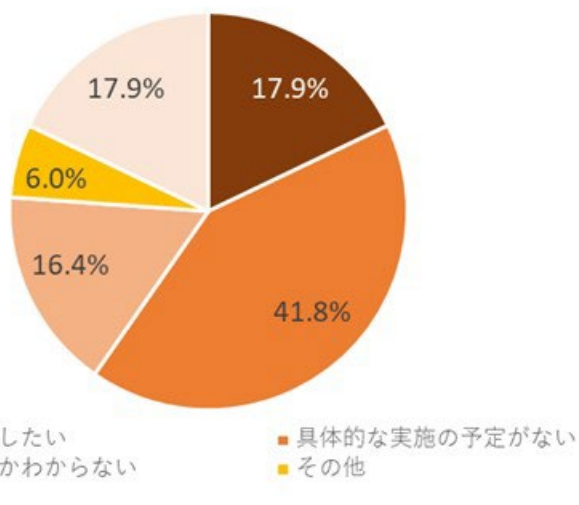


3. アンケート結果から得られた内容

生産者アンケート調査結果

現状輸出を実施していないが、今後輸出をしたいと回答した生産者のうち、今後の計画では、具体的な実施の予定がないとしている生産者が41.8%と最も多い。またどうしたらよいかわからないと回答している生産者が16.4%となっており、輸出に関する情報発信などが必要になると考えられる。

今後の計画 (n=67)
輸出していない、わからないと回答し、今後は輸出
をしたいと回答した回答者限定



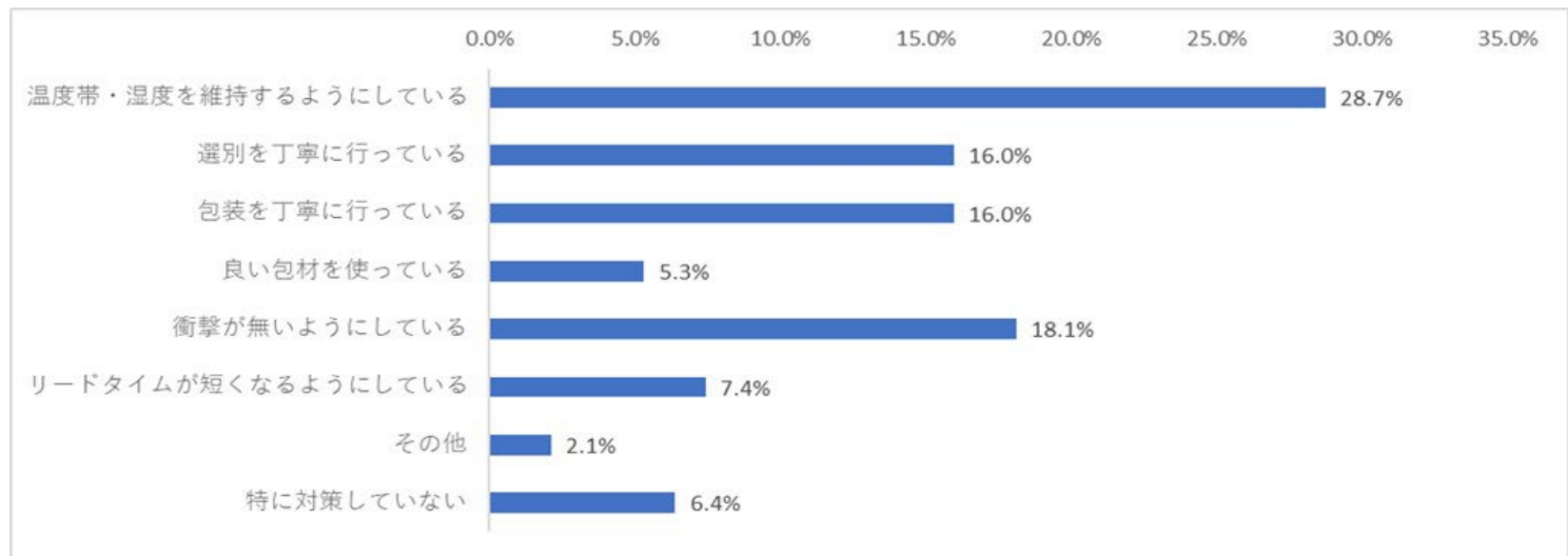
その他に記載のFA:

- ◆ 需要があるようなら、興味はある（冷凍大根おろし）
- ◆ 条件が合えば輸出したい。今年度中に香港へ市場調査に行く予定
- ◆ 市場関係者、加工メーカーと協議会を作って、現在サンプル出荷などをしながら交渉を進めています
- ◆ 将来的には輸出を行いたい
- ◆ 八代港から船に業務用冷蔵庫を載せて着色NO6のトマトをアジアに輸出する
- ◆ 輸出が可能になれば...

3. アンケート結果から得られた内容 生産者アンケート調査結果

■ 輸出の輸送で重視していることは温度帯が最も多い。品目によって適温が異なるからだと考えられる。

輸出の輸送で重視していること
輸出している、たぶん輸出していると回答している回答者（複数回答、n=94）



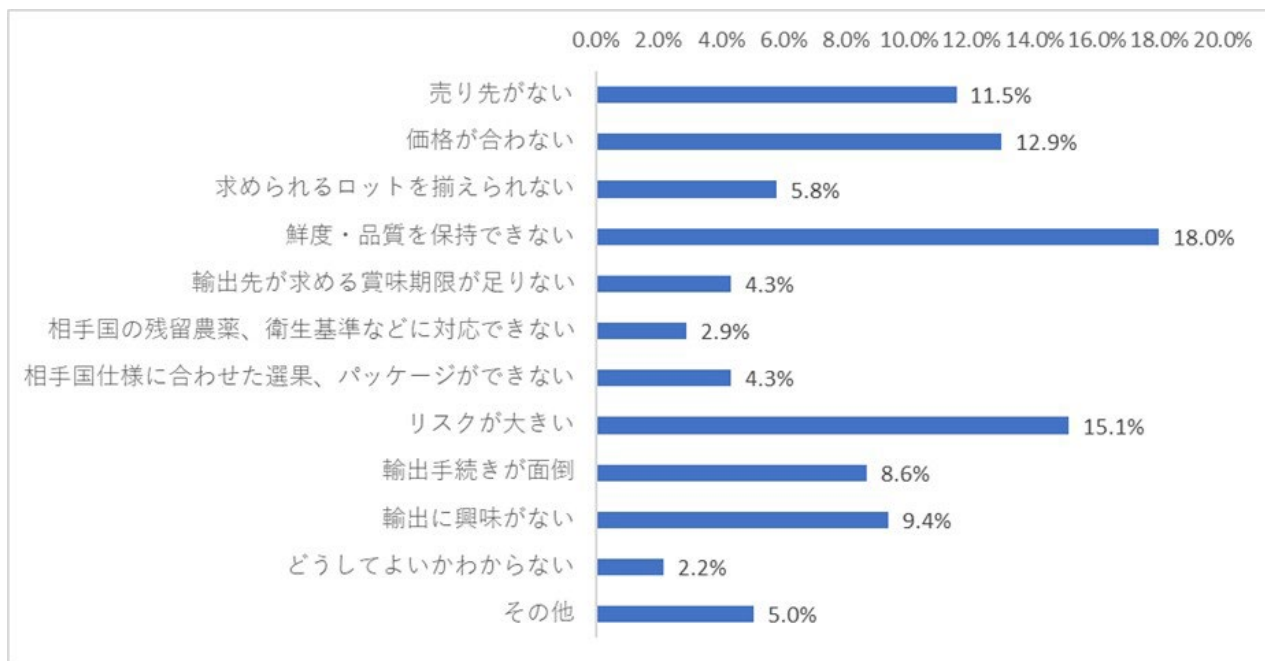
その他FA:

- ◆ 販売先が輸出をしていると思うが、その先のことはわからない
- ◆ 魚を着荷まで殺さないこと
- ◆ 冷凍加工品に限定
- ◆ 輸出適性が高い品目を提案している

3. アンケート結果から得られた内容 生産者アンケート調査結果

■ 輸出を実施しない理由として、鮮度・品質の保持が18%で最も多い。

輸出を実施しない理由
輸出したくない、どちらでもない回答している回答者（複数回答、n=139）



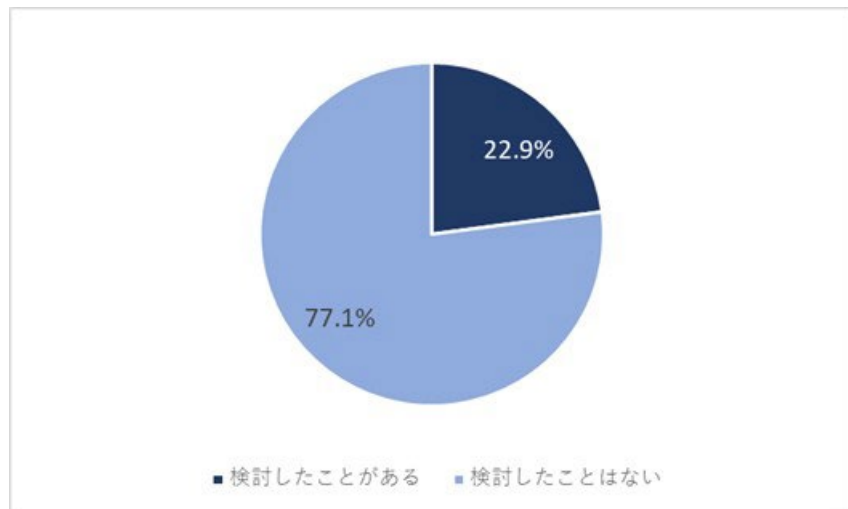
その他FA:

- ◆ そもそも大根自体が海外で食される機会が少ないと認識している。
- ◆ 現状の取引先の対応でいっぱいです。生産量が増える見込みがない。
- ◆ 相手国の市場調査ができていない。
- ◆ 当面必要と考えていない。
- ◆ 輸出ありきではなく、収益性をもって判断する。
- ◆ 受託作業のみの為、出荷するものが無い。

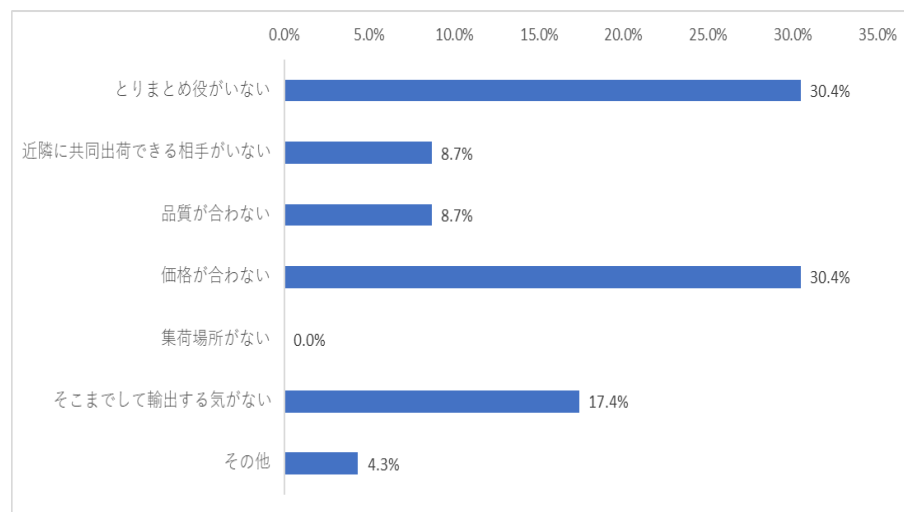
3. アンケート結果から得られた内容 生産者アンケート調査結果

- ロットを揃える検討はあまりされたことが無いというのが実態。
- ただ、検討したことがあるのに実施していない理由としては、価格が合わないと同様に取りまとめ役がないことが約30%であげられている。

ロットを揃える方法の検討有無
輸出を実施したくない、どちらでもないと回答した回答者
(n=48)



ロットを揃える方法を検討したが実施していない理由
輸出を実施したくない、どちらでもないと回答した回答者、
検討したことがあると回答した回答者（複数回答、n=23）

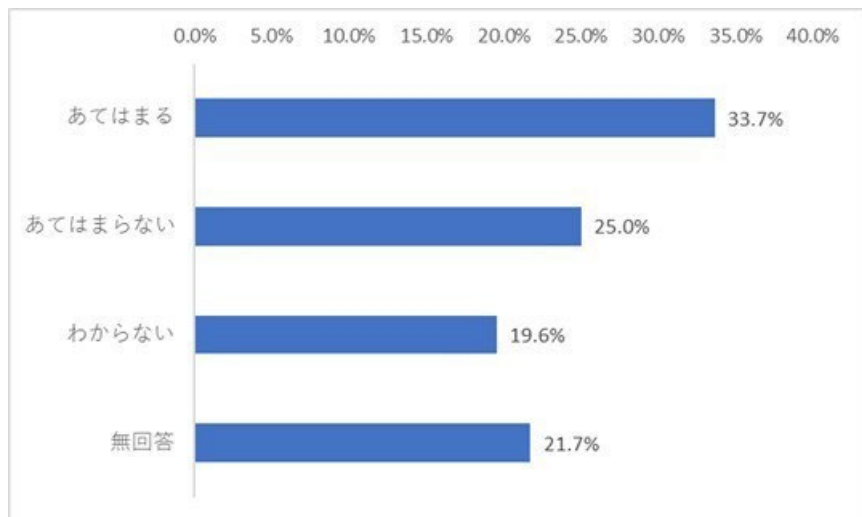


その他FA:
◆ 集出荷時間の問題

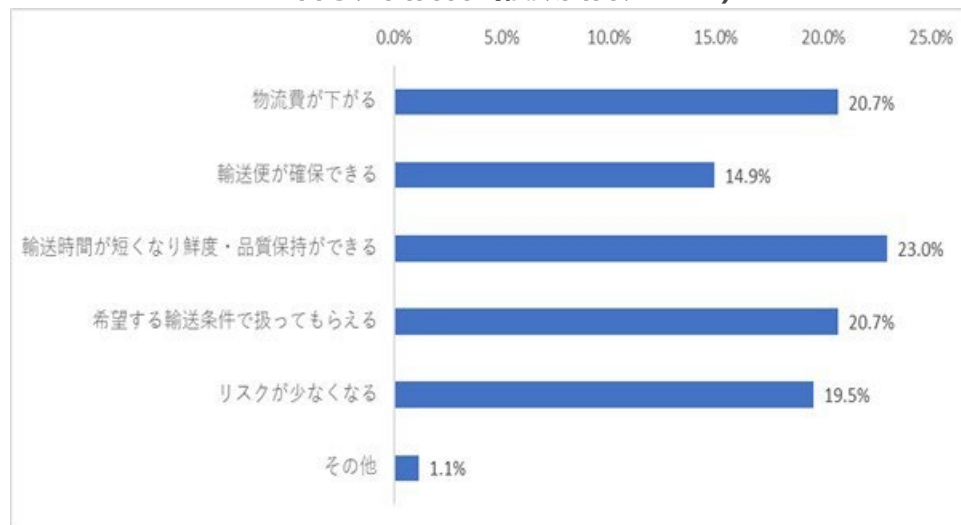
3. アンケート結果から得られた内容 生産者アンケート調査結果

- 物流課題が輸出を実施しない理由として最も高くなっている。
- 輸出に繋がる理由としては、輸送時間が短くなること・品質保持ができることがあげられている。

輸出を実施しない理由に物流の課題は当てはまるか
輸出していないと回答した回答者 (n=92)



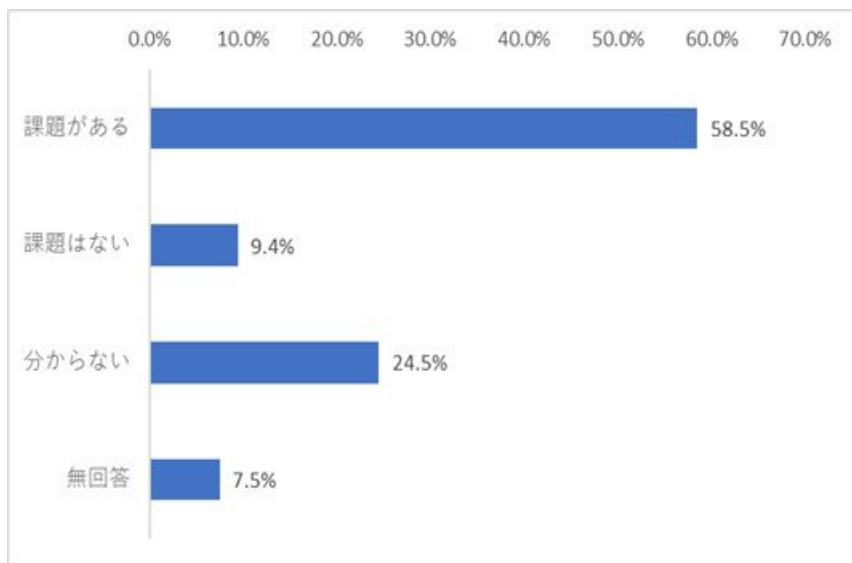
どうすれば輸出をしたいと思うか
輸出していない、輸出をしない理由に物流課題が当てはまると回答した回答者 (複数回答、n=87)



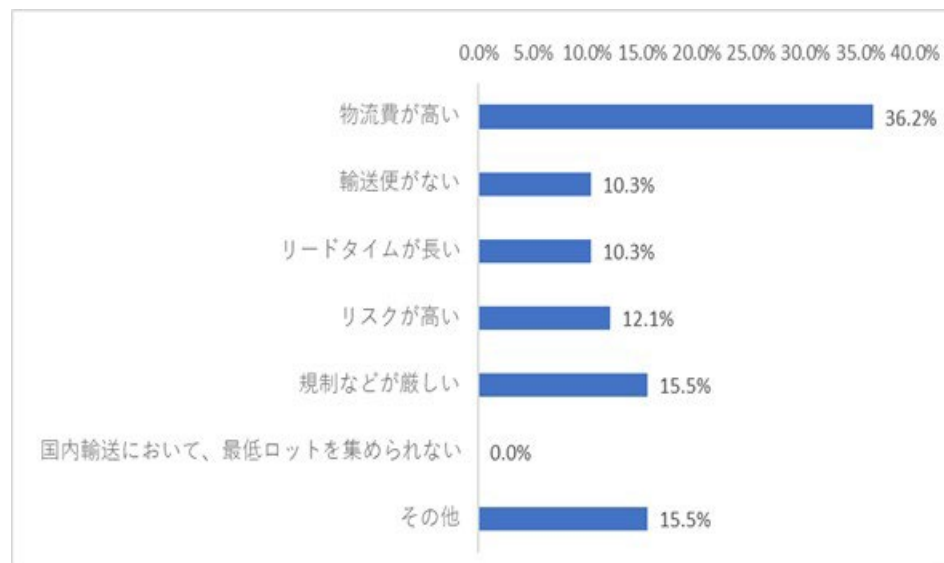
3. アンケート結果から得られた内容 生産者アンケート調査結果

- 輸出に関して、課題を感じている生産者は多い。
- 最も顕著な課題は物流費となっている。

輸出の課題有無
輸出している、たぶんしていると回答した回答者 (n=53)



輸出の課題の内容
輸出している、たぶんしている、課題があると回答した回答者
(複数回答、n=58)



3. アンケート結果から得られた内容 生産者アンケート調査結果

効率的な輸出物流の構築に向けて重要だと思うことはルートの確立が最も高い。

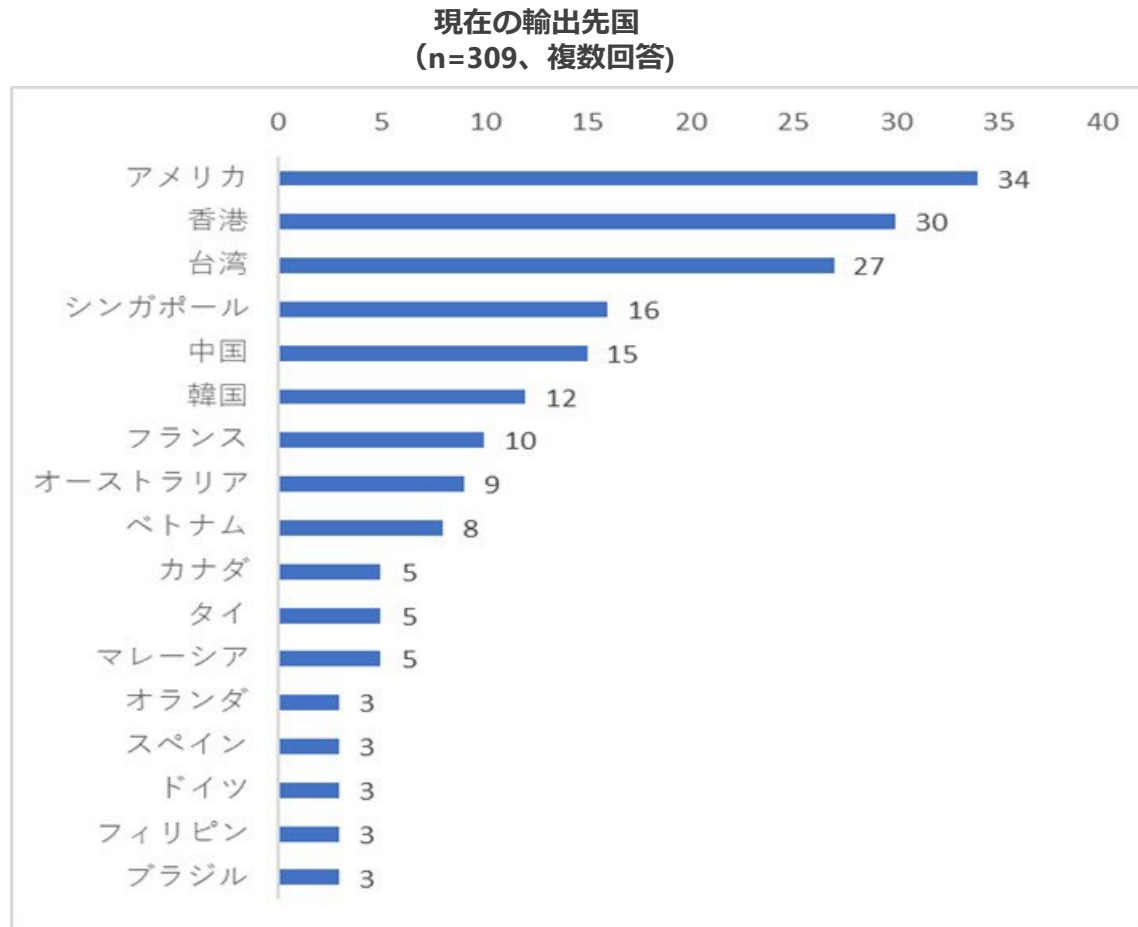
効率的な輸出物流の構築に向けて重要だと思うこと
(複数回答、n=284)



3. アンケート結果から得られた内容

食品製造事業者アンケート調査結果

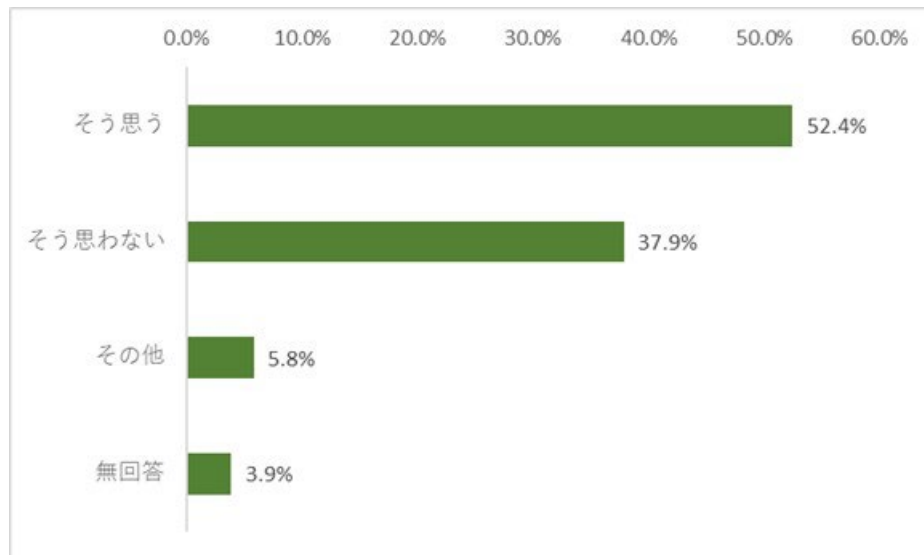
■ 東南アジアよりもアメリカに輸出している事業者が多い。



3. アンケート結果から得られた内容 食品製造事業者アンケート調査結果

■ 関東近県産との競争については、不利と思う事業者が半数を超えている。

関東近県産の商品との競争不利について
(n=103)



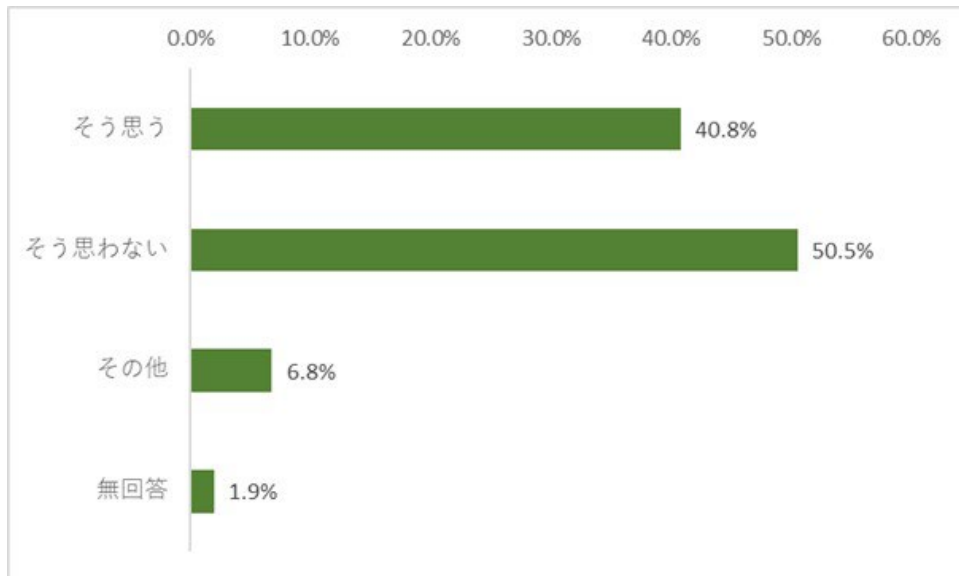
その他FA

- ◆ 送料負担で価格が上がる可能性はあると思われます。
- ◆ 九州より東北の方が物流費が安い為価格で負ける。
- ◆ 小売販売の場合、首都圏に近い生産地に送料の分で不利になる
- ◆ 首都圏への輸送が無い為わからない。
- ◆ 臨機応変に対応
- ◆ 首都圏への出荷が少ないためわからない
- ◆ 現状では感じていません。
- ◆ 多少の影響はあると考えています。

3. アンケート結果から得られた内容 食品製造事業者アンケート調査結果

食品製造事業者はアジア向けの輸出に九州から出すことの優位性はそこまで感じていない傾向がある。

アジア向け輸出は有利か
(n=103)



その他FA

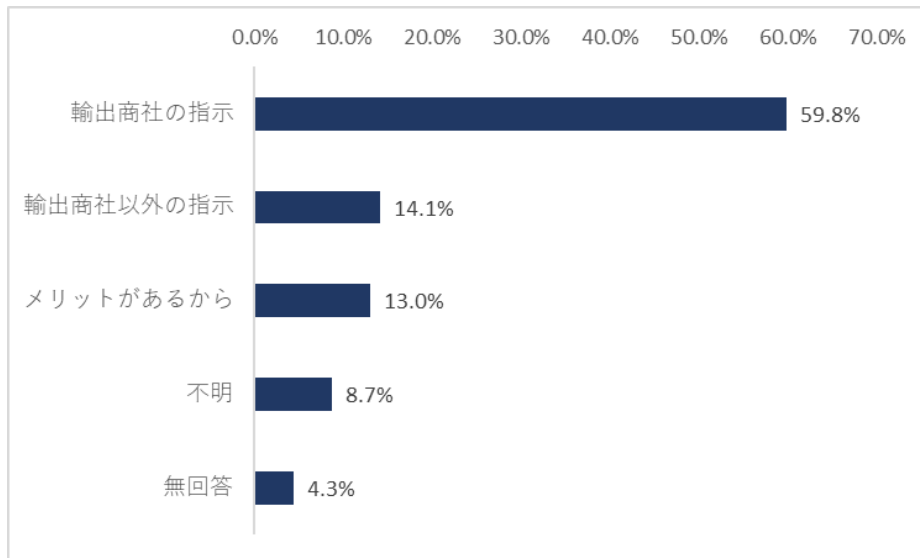
- ◆ 一旦大阪に送ることが多い、輸出港の整備が必要
- ◆ 船便の仕向け地の数や週あたりの便数で考えると、首都圏の優位性はやはり高いと考えている
- ◆ 実績がないので不明です。
- ◆ 国内商社によっては関東方面で集める可能性もあるため有利になることはないのではと思います。
- ◆ アジア各国に近い。特に中国・台湾には有利と思います。
- ◆ 取引がある商社が関東・関西の為
- ◆ アジア向け輸出が少ないためわからない。
- ◆ 現状では分かりません。
- ◆ どちらともいえない

3. アンケート結果から得られた内容 食品製造事業者アンケート調査結果

■ 輸出拠点を活用している理由は輸出商社の指示が最も多い。

輸出拠点を活用している理由
(複数回答、n=92)

その他FA

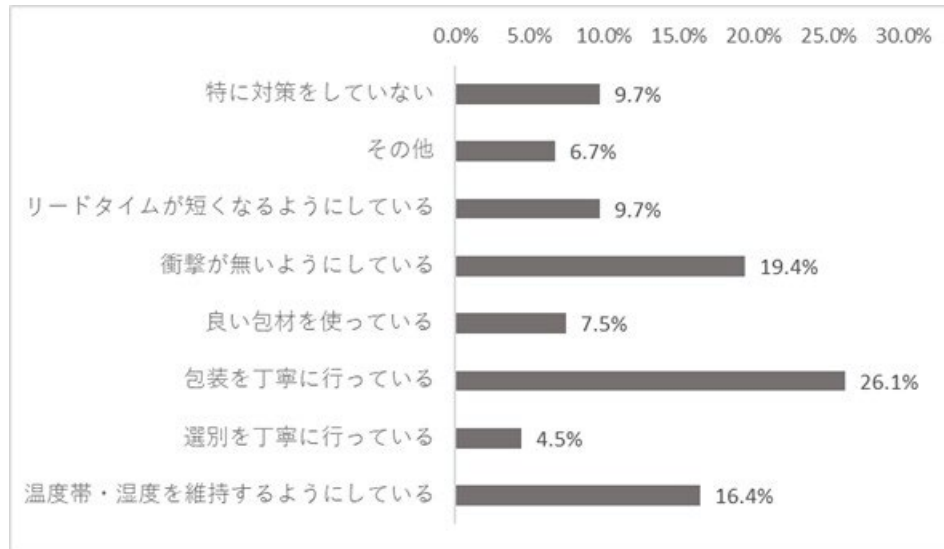


- ◆ 自社で選定
- ◆ 取引先からの指示
- ◆ 相手先指示

3. アンケート結果から得られた内容 食品製造事業者アンケート調査結果

輸出輸送時に重視していることは包装を丁寧に行うことが26.1%と最も高い。

輸出輸送時に重視していること
(輸出を実施している事業者、複数回答、n=134)



その他FA

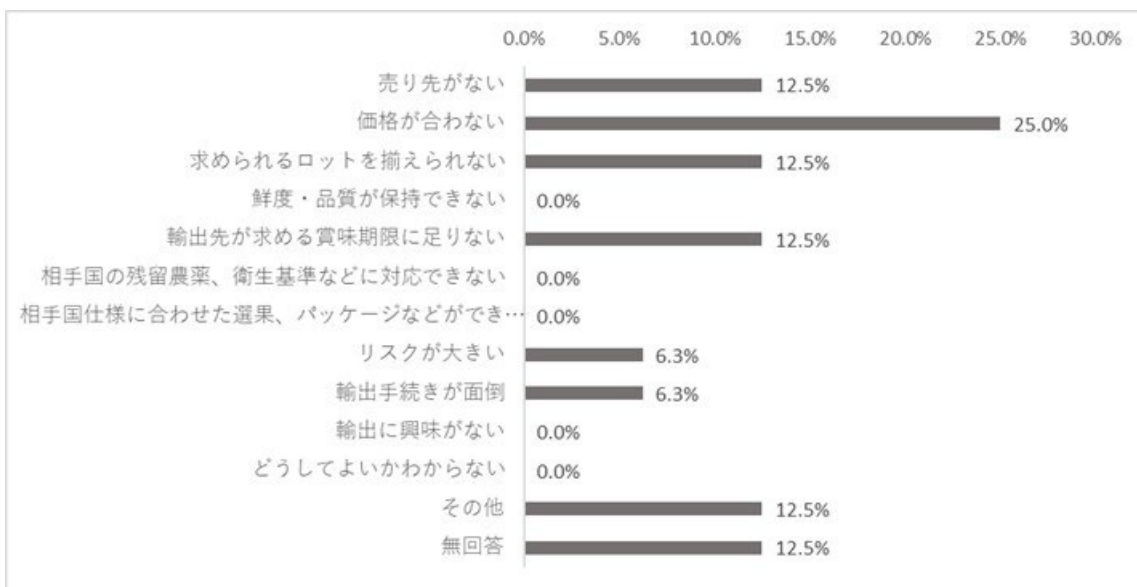
- ◆ 国内商社指示
- ◆ 水商品で、重い為荷崩れしない様にパレットの強度や梱包箱の強度不足から箱内缶商品の凹み等
- ◆ 国内向け商品と同様に温度帯に注意して配送している。
- ◆ 28度以下になるようお願いしている。
- ◆ 国内出荷と同様に対応
- ◆ 自社工場での製造キャパシティや出荷タイミング
- ◆ コスパ
- ◆ 商社指定のパレットを輸送時に使用している。

3. アンケート結果から得られた内容 食品製造事業者アンケート調査結果

■ 輸出を実施しない理由は価格が合わないと挙げている事業者が多い。

輸出を実施しない理由
(輸出を実施したくない事業者、複数回答、n=16)

その他FA

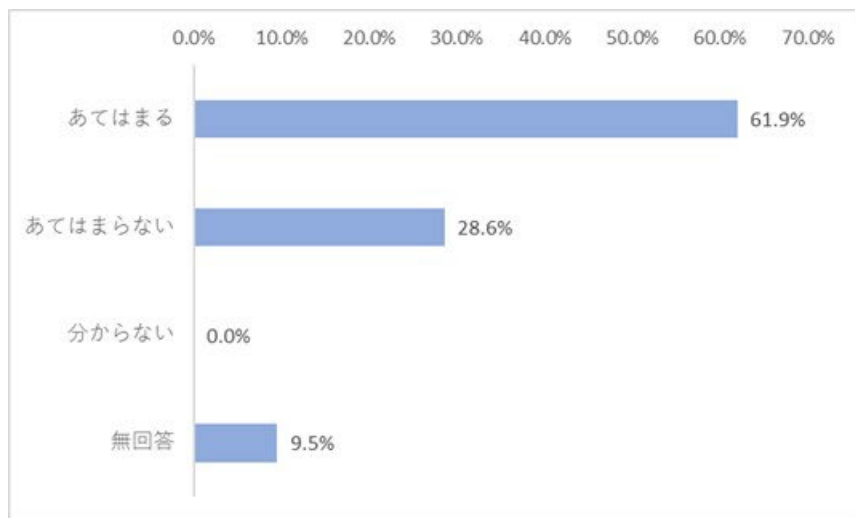


- ◆ 販売会社が別であるため直接輸出することがない
- ◆ 最低賃金の上昇で生産は出来るが生産コストの上昇、残業の増加でメリットが少ない。

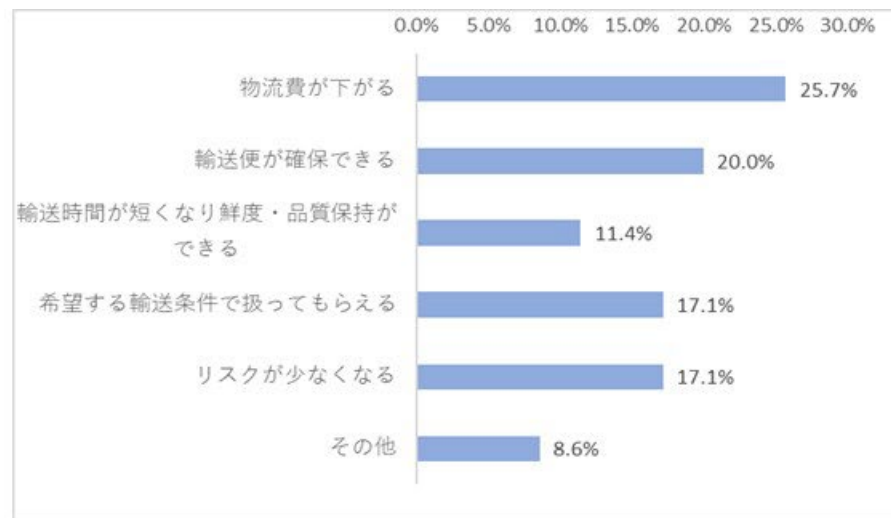
3. アンケート結果から得られた内容 食品製造事業者アンケート調査結果

- 輸出を実施しない理由に物流の課題が当てはまると回答した事業者が61.9%いる。
- 課題としては、物流費が高いことが挙げられる。

輸出を実施しない理由に物流の課題が当てはまるか
(輸出を実施していないと回答した事業者、n=21)



どうすれば輸出をしたいか
(輸出をしておらず、左で「あてはまる」と回答した事業者、
複数回答、n=35)



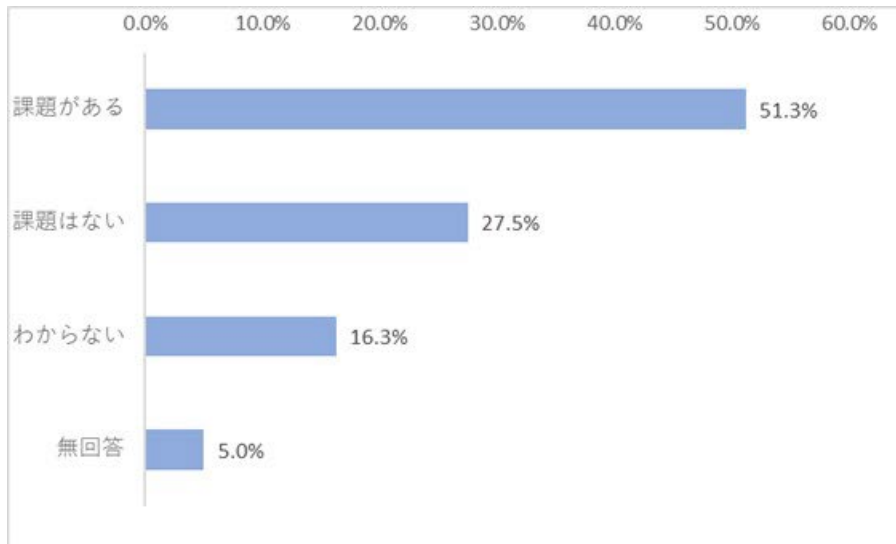
その他FA :

- ◆ リーフアーコンテナの混載条件の緩和
- ◆ 輸出先の受け入れ先との信頼関係
- ◆ 輸出の際の輸送方法について、マンツーマンで指導してもらえる環境があればやりたい。(全般的に個別指導してもらえる環境があれば是非やりたい) できれば無償でそのような学びの機会をいただけると助かります。

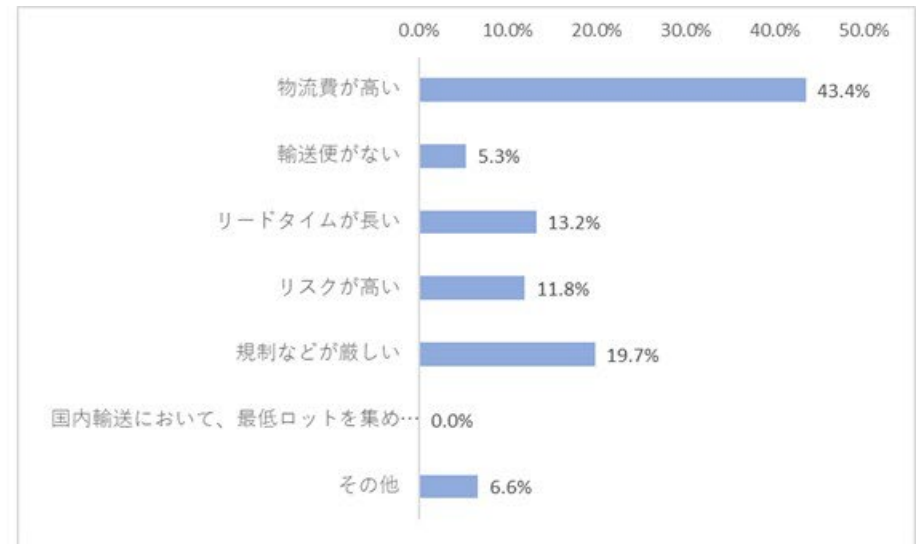
3. アンケート結果から得られた内容 食品製造事業者アンケート調査結果

- 輸出物流における課題はあると回答した事業者が5割を超えている。
- 一番は物流費が高い、次いで規制などが厳しいとなっている。

輸出している事業者のうち、輸出物流における課題の有無
(n=80)



課題の内容
(左図で課題があると回答した事業者、複数回答、n=76)



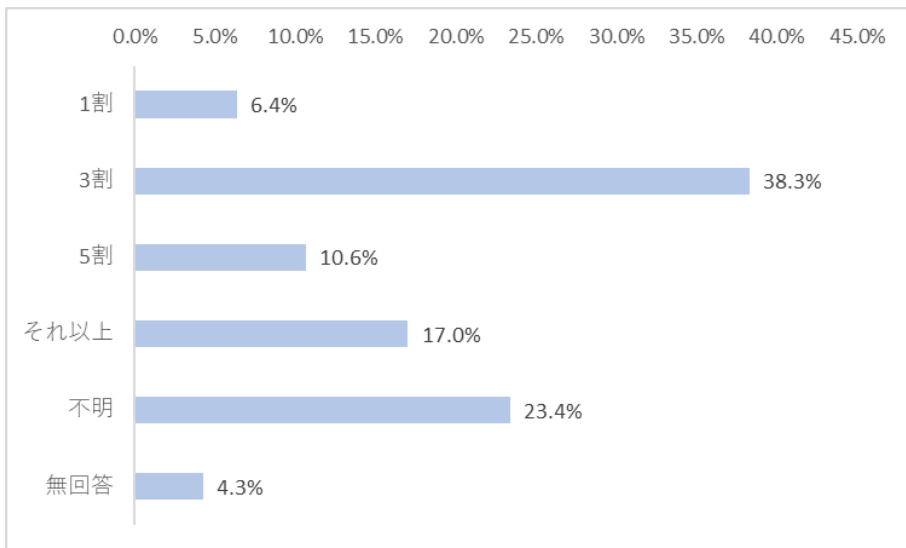
その他FA:

- ◆ 離島なので、海上輸送費もプラスでかかる。この問題を認識していますか？
- ◆ 自社工場でのバンニング可能箇所の設備的な制約がある（効率的なバンニング作業が難しい）また商品によっては、外国語ラベル貼りを輸入者から要請される場合がある。商品単価が安いいため外部委託すると商品単価が大きく上昇するので、自社の限られた人員で作業を行っている
- ◆ 川内港からの船の便が少ない上に、遅延・抜港等が多い。
- ◆ 金額が上げられない

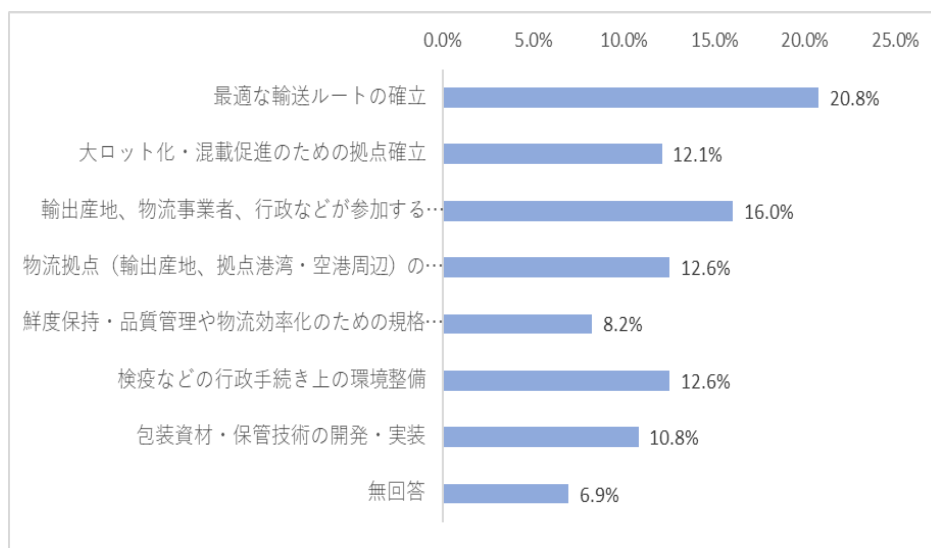
3. アンケート結果から得られた内容 食品製造事業者アンケート調査結果

- 改善の割合は3割が最も多い。
- 効率的な輸出物流に向けた取り組むべき事項は最適な輸送ルートの確立が最も多い。

改善の割合
(輸出している事業者で物流改題が改善されれば輸出を増やしたいと思うと回答した事業者、n=80)



効率的な輸出物流に向けた取り組むべき事項
(複数回答、n=231)

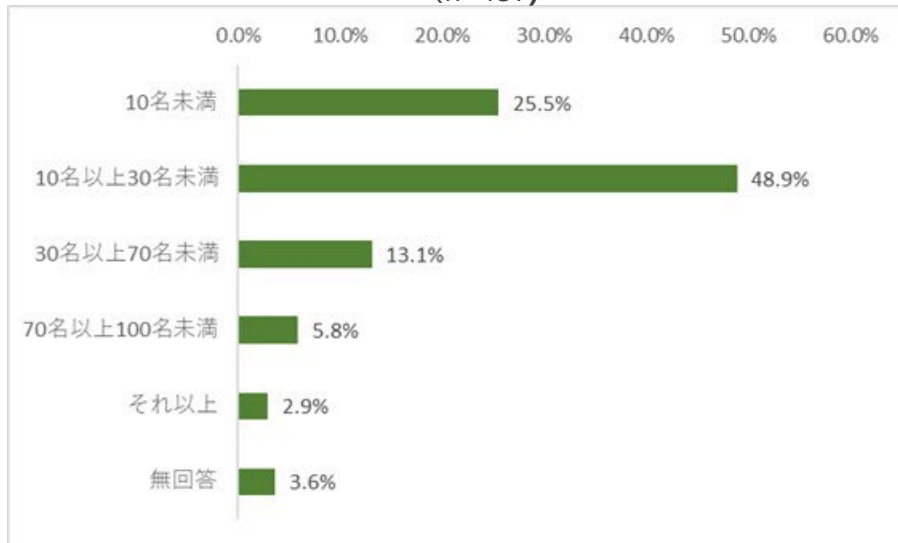


3. アンケート結果から得られた内容

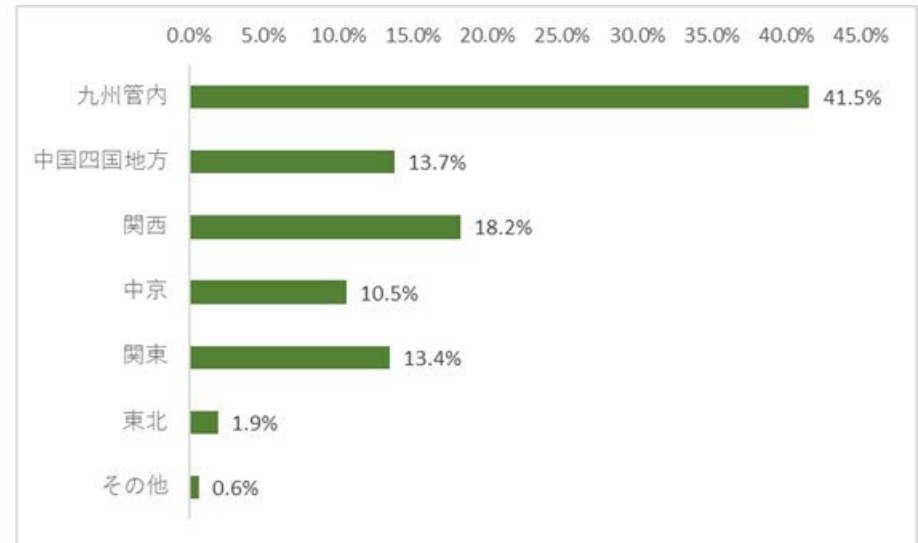
物流事業者アンケート調査結果

- ドライバーの数では、10~30人の規模が一番多く、約半数となっている。
- 主な輸送地としては、九州管内が40%越えで最も多く、次いで関西行きの18.2%となっている。

物流事業者におけるドライバー数
(n=137)



主な輸送地
(複数回答、n=313)

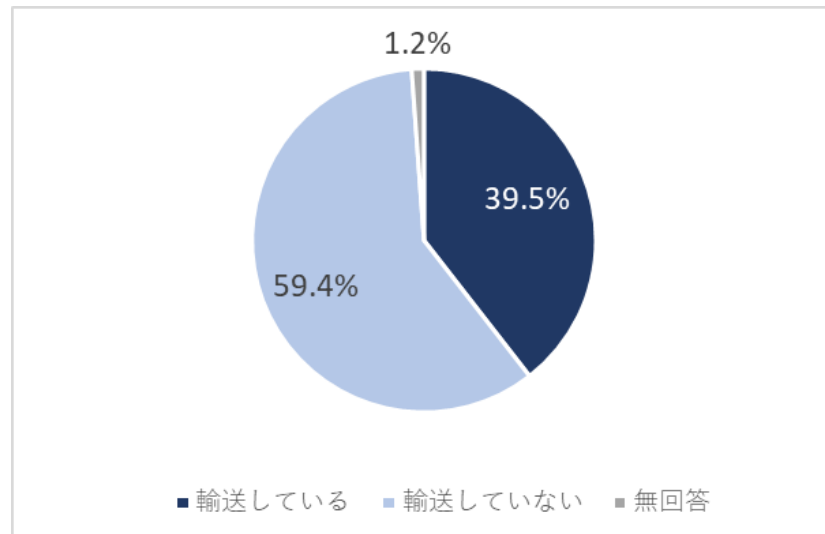


3. アンケート結果から得られた内容

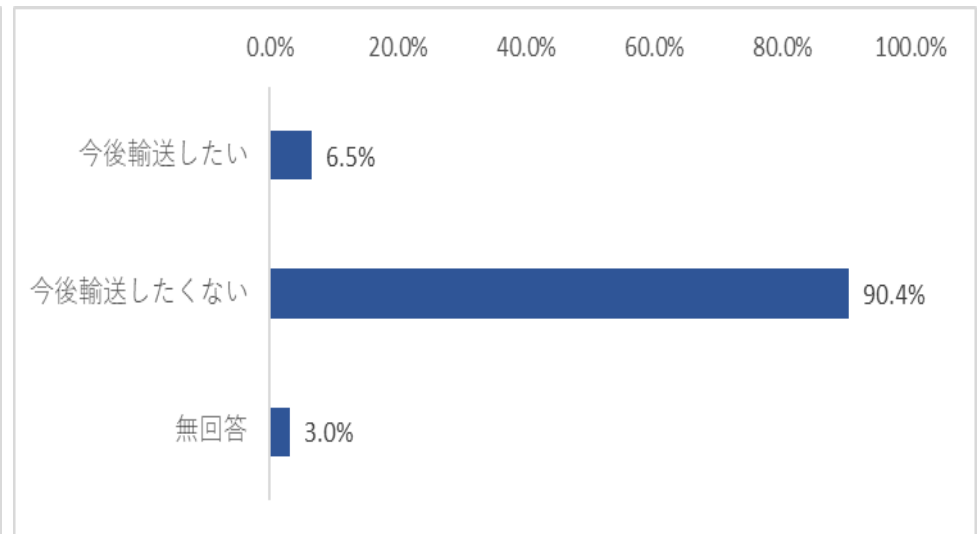
物流事業者アンケート調査結果

- 農林水産物や加工食品を運んでいるのは全体の4割弱となっている。
- 運んでいないまたは運びたくない事業者に今後の意向を聞くと、9割が輸送したくないと回答している。

農林水産物や加工食品などを輸送しているか
(n=347)



今後、農林水産物や加工食品を輸送したいか
(n=230)



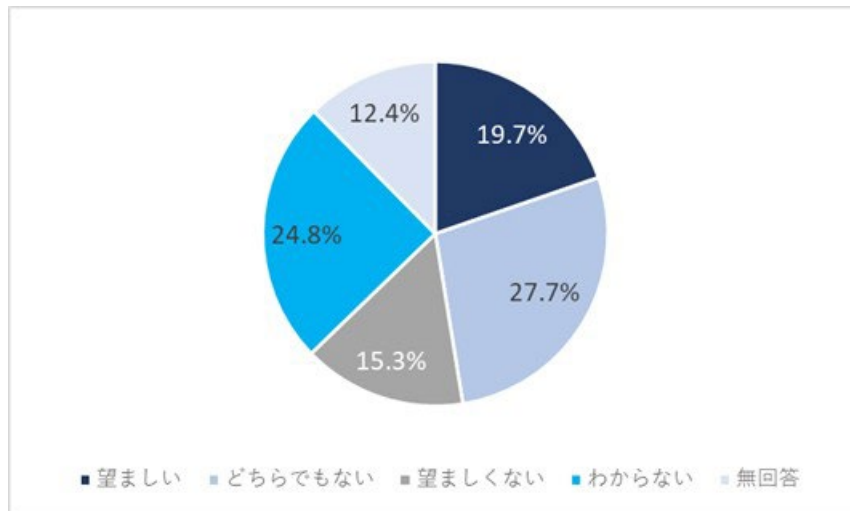
※現状農産物を輸送している事業者の中に、運びたくないと回答した事業者が含まれるため、総数から農産物を運んでおり、今後運ぶかどうかの設問に回答していない（正しい）回答者を除いたn=230で算出。

3. アンケート結果から得られた内容

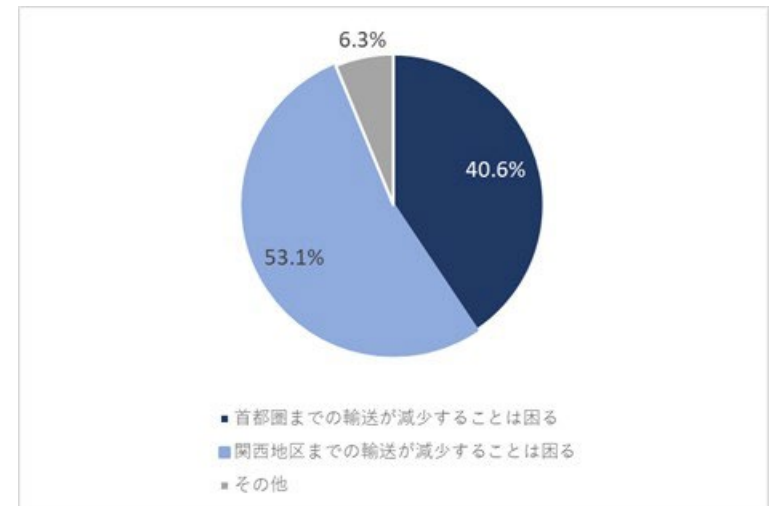
物流事業者アンケート調査結果

アジア向け輸出は九州の産地や製造地において、有利だと考えられるが、仮に首都圏までの輸送より、博多港や福岡空港までの輸送が増えるとなった場合についての意見は以下の通り。

博多港や福岡空港前の輸送が増えるとなった場合についての意見(n=137)



望ましくない理由(n=32)

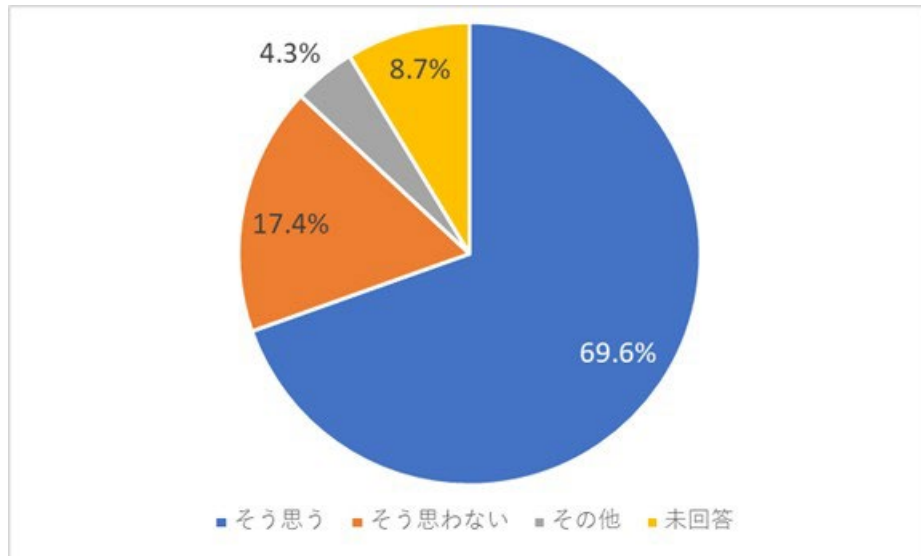


3. アンケート結果から得られた内容

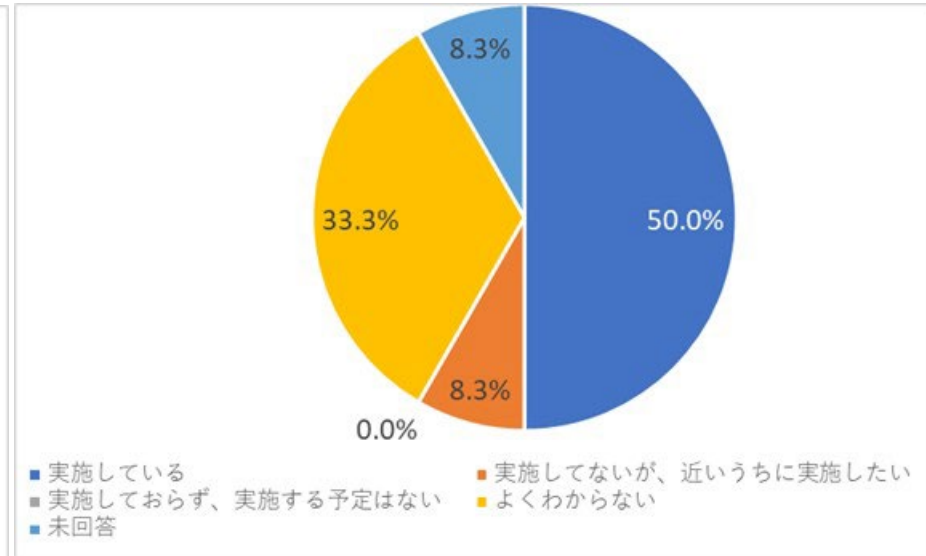
輸出商社調査結果

- 輸出商社からのアンケート調査は有効回答数が少ないため、注意が必要。
- 九州は首都圏へ出荷するよりも輸出は有利になると思う輸出事業者は7割。
- 九州の農林水産物の輸出については50%が実施している。

九州は首都圏近県より輸出は有利になると思うか
(n=24)



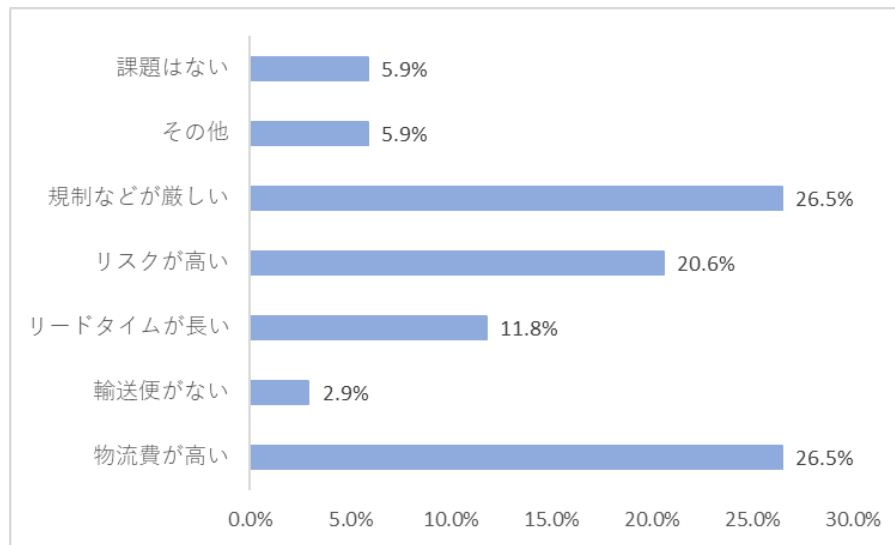
九州の農林水産物を輸出しているか
(n=24)



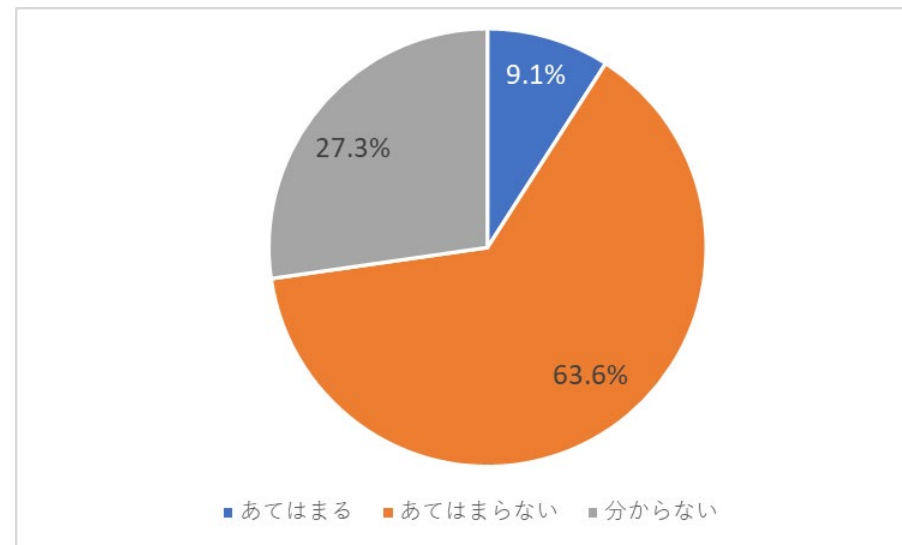
3. アンケート結果から得られた内容 輸出商社調査結果

- 輸出物流の課題は規制などが厳しい点と物流費が高いことがいずれも26.5%と最も多い。
- 九州の農林水産物の輸出を実施しない理由に物流課題は当てはまると回答したのは9.1%にとどまっており、多くは当てはまらないと回答している。

輸出物流の課題
(n=34, 複数回答可)



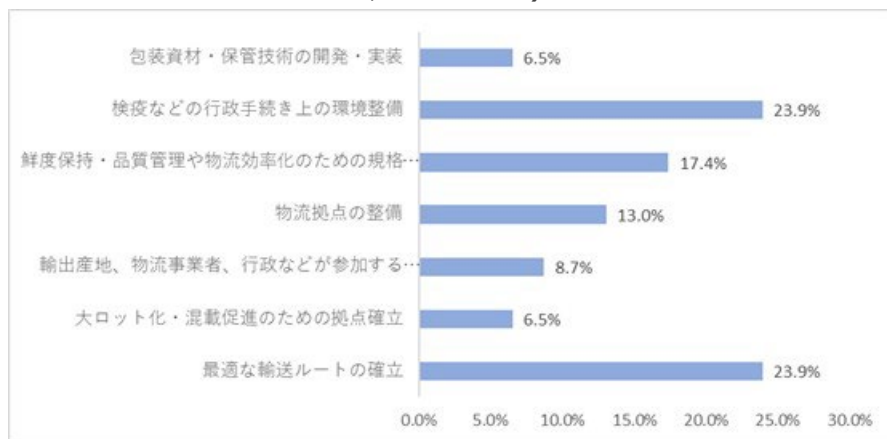
輸出を実施しない理由に物流課題が当てはまるか
(n=11)



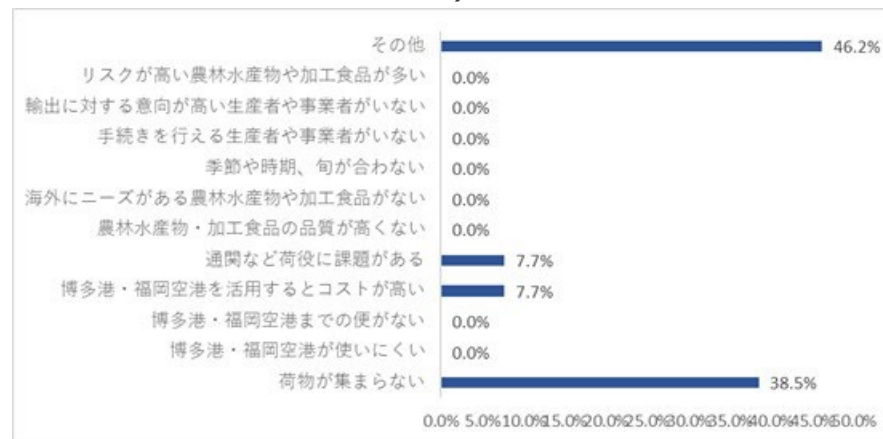
3. アンケート結果から得られた内容 輸出商社調査結果

- 輸出物流の構築に向けて取り組むべき事項については、最適な輸送ルートの確立と検疫などの環境整備がいずれも23.9%とトップになっている。
- 九州の農林水産物や加工食品を輸出する際の課題はその他が多く、内容は不明。ついで荷物が集まらないが38.5%となっている。

輸出物流の構築に向けて取り組むべき事項
(n=46, 複数回答可)



九州の農林水産物や加工食品を輸出する際の課題
(n=13)



3. アンケート結果から得られた内容 まとめ

- アンケート調査結果のまとめは以下の通り。
- **1. 物流2024年問題と輸出への意識**
 - **国内競争への懸念:** 生産者の7割、食品製造事業者の5割が「物流2024年問題により関東近県との競争が不利になる」と回答。九州という立地が国内輸送においてハンデとなる認識が強い。
 - **輸出への期待:** 一方で、アジア向け輸出が有利になると考える層は生産者で5割、食品製造事業者で4割にのぼる。国内物流の困難さが、相対的に近隣アジアへの輸出関心を高める要因となっている。
- **2. 生産者・食品製造事業者のボトルネック**
 - **生産者の懸念事項:** 輸出において「温度・湿度の維持（29%）」や「衝撃の緩和（18%）」を重視。輸出をしない主な理由は「鮮度・品質維持（18%）」や「リスクの大きさ（15%）」であり、品質管理への不安が最大の壁となっている。
 - **ロット集約の停滞:** 生産者でロットを揃える検討をした者はわずか2割。その理由は「取りまとめ役の不在」と「価格の不適合」が各3割を占め、集荷組織の欠如が浮き彫りとなった。
 - **食品製造事業者の課題:** 輸出商社の指示（60%）でどこの拠点を活用するかが決まるケースが多く、主体的な物流設計が少ない（できない）。輸出をしない理由は「価格が合わない（25%）」が最多。輸出物流に課題を感じている層は6割に達し、特に「物流費の高さ（43%）」がネックとなっている。

3. アンケート結果から得られた内容 まとめ

3. 物流事業者の消極的な姿勢

- **食品輸送への忌避:** 実際に農林水産物を運んでいる事業者は4割にとどまり、今後の意向については9割が「運びたくない」と回答。荷扱いの難しさや採算性が参入の障壁となっていると考えられる。
- **既存ルートへの固執:** 輸送先が首都圏から博多港・福岡空港へシフトすることに対し、物流事業者からは「望ましい」とする回答は2割。大半は首都圏・関西圏への長距離輸送の減少を懸念しており、既存の収益構造が地産地消・地域発輸出への転換を阻んでいる可能性がある。

4. 輸出商社の視点と環境整備の必要性

- **九州の潜在能力:** 7割が「アジア向け輸出において九州は有利」と認めている。
- **集荷機能の弱さ:** 九州産品を扱わない理由として「荷物が集まらない(38.5%)」が上位に挙がり、物量のまとまりが欠如していることが商流形成の妨げとなっている。
- **最適な輸送ルートへの需要:** 「最適な輸送ルートの確立」と「行政手続き上の環境整備」が同率(23.9%)で最重要課題とされている。

5. 持続可能な社会実装に向けた要件

- **拠点活用の最適化:** 福岡空港の韓国便の多さなど、既存の強みを活かすべき。また、輸出拠点の着時間を考慮した緻密な運行管理が必要。
- **仕組み化と課題解消:** 持続可能なルート構築を「仕組み」として定着させることが不可欠。実証で露呈した個々の課題(コスト、荷扱い、調整等)を確実に潰していく必要がある。